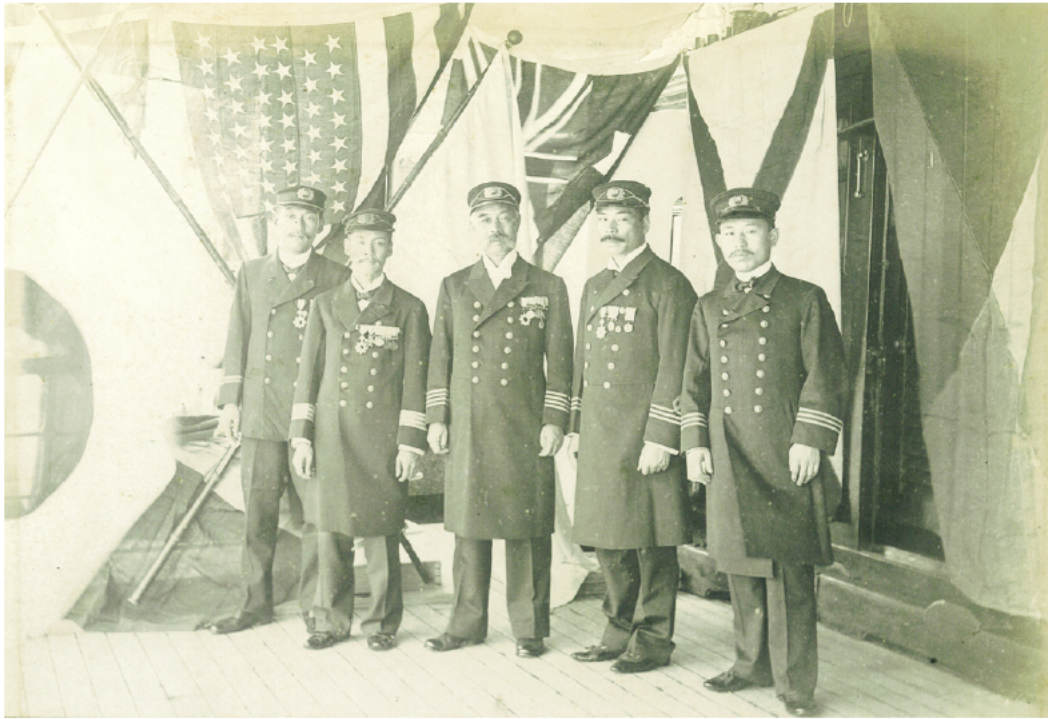


海風日記

さまざまな記憶を包含した貴重な収蔵品が日本郵船歴史博物館にあります。海風が日記をめくるように積み重ねた歴史を紹介します

“ 戦前の船員制服 ”



礼服を着用する船長や機関長

1910(明治43)年/「日光丸」

「日光丸」で催された天長節(天皇誕生日)の祝賀会。

規定の祝日なので船長、機関長、一等運転士、一等機関士は「礼服」を着用しています。

二等運転士(左端)は「通常服」を代用して着用



食卓服
戦前
船長が着用していた夏服の「食卓服」

※1 船舶役員…海技資格受有者。現在の職員に当
たる
※2 運転士…1944(昭和19)年、「航海士」に名称
が改められた

日 本郵船で定めた最初の船員制服は1888(明治21)年に施行した「船員正服規則」です。その後、1903(明治36)年に「船員制服規則」と「船員制服給付規程別冊」が制定され、この規則が戦前の制服の基本となり、改正を重ねながら戦後まで続きます。

戦前の船舶役員^{※1}用制服は、現行の制服と同じデザインに「通常服」に加えて、元日や創立記念日などの賀儀葬祭に着用するフロックコート型の「礼服」、接待のための晩さん時に着用する短ジャケット型の「食卓服」の3種類がありました。船舶役員は制服手当を支給され、各自、港町にある専門の洋服店で仕立て、立場や場面を使い分けて着用しました。

夏服に付ける肩章と冬服に着ける袖章は、職位に応じて金筋の本数や識別線の色が細かく定められています。日本郵船といえば金筋の「ひし形」が思い浮かびますが、このマークは1961(昭和36)年の服制改定まで船長と二等^{※2}運転士の制服上衣だけに限られた仕様でした。



NYK MARITIME MUSEUM
日本郵船歴史博物館

※2023年4月1日より日本郵船歴史博物館は休館しています

